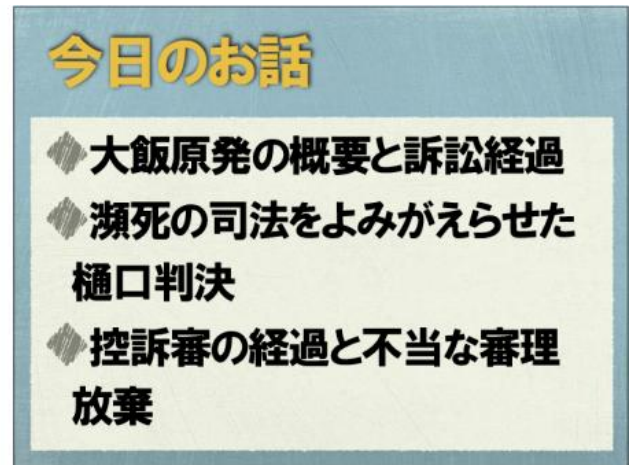




01

1



2



3



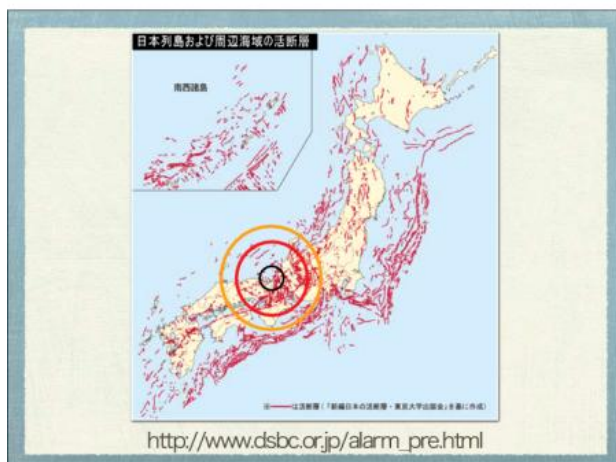
4



5



6



7



8

大飯原発福井訴訟の経過

2012年7月	3, 4号機送電開始 (福一後初)
11月30日	福井地裁に第1次訴訟を提訴
2013年2月	第1回口頭弁論
3月11日	第2次提訴
9月	定期検査入り, 再び原発ゼロに
2014年1月	第6回口頭弁論, 裁判所「終結も視野」
3月27日	結審(証人尋問はなし)
5月21日	原告勝訴判決
11月5日	控訴審第1回期日
2017年4月24日	島崎邦彦前規制委委員長代理尋問
7月5日	裁判所, その他の証拠調べ申請却下→忌避

9

瀕死の司法を よみがえらせた 樋口判決



10

樋口判決 福井地裁 2014年5月21日

02



©Digital Globe

福島事故後初の運転差止命令

11

福島第二原発1号機訴訟福島 地裁判決(1984年7月23日)

全ECCS不動作を想定した事故解析も不可能ではないとしつつ,
「そのような考え方を押し進めると, 格納容器の破壊, 爆発等を想定した事故解析にまで進まないとも限らず,
そのような想定の下では事実上どのような原子炉の設置でも不可能に近い」

12

浜岡原発訴訟静岡地裁判決 (2007年10月26日)

「想定東海地震を超える地震動が発生するリスクは依然として存在する」として原告の主張立証が一応なされたことを認めつつ,
「しかし, このような抽象的な可能性の域を出ない巨大地震を国の施策上むやみに考慮することは避けなければならない」

13

浜岡訴訟判決に対する 石橋克彦教授コメント



この判決が間違っていることは自然が証明するだろうが, そのとき私たちは大変な目に遭っている恐れが強い

14

原発について 司法は「瀕死の状態」だった

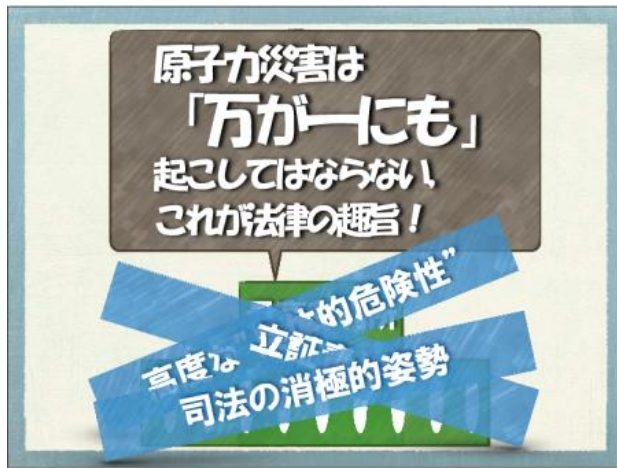
- ◆ 原告にとっての第一のハードル
高度な“具体的危険性”
- ◆ 原告にとっての第二のハードル
立証責任
- ◆ 原告にとっての第三のハードル
司法の消極的姿勢

15

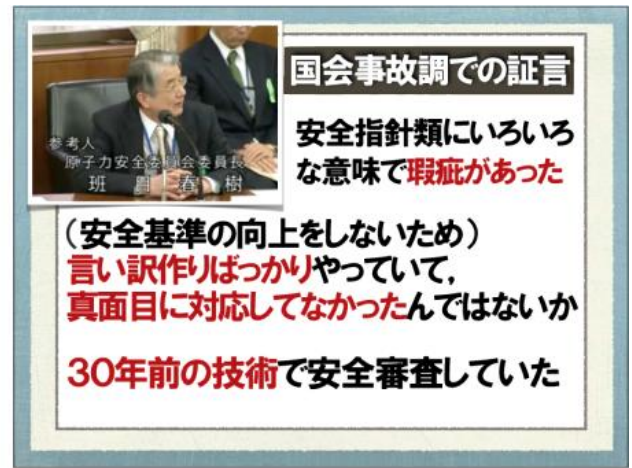
立証責任

電力
安全審査
往証
常識

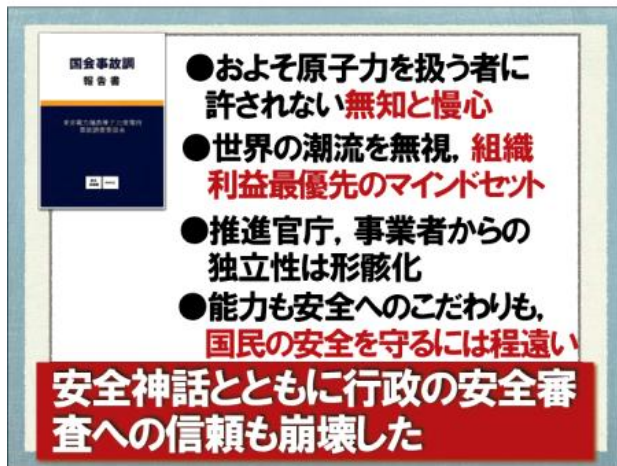
16



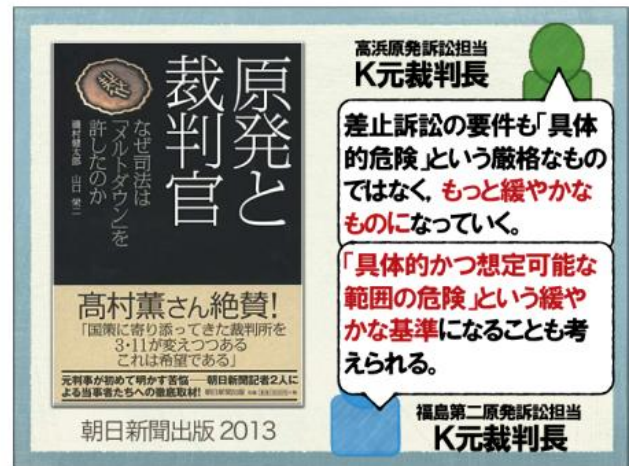
17



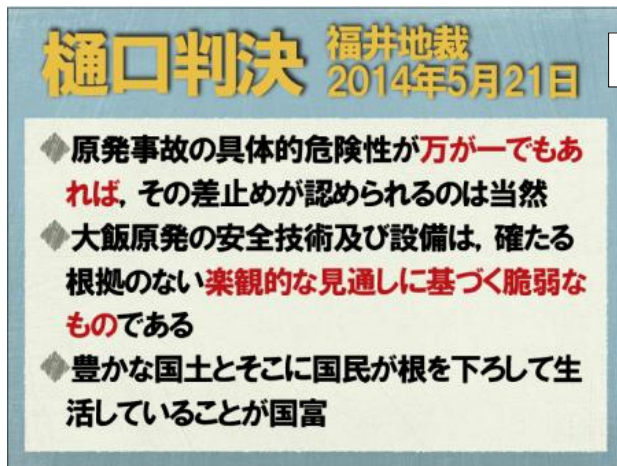
18



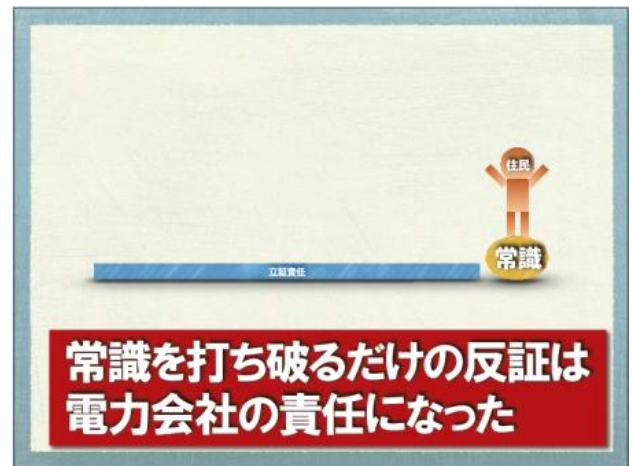
19



20



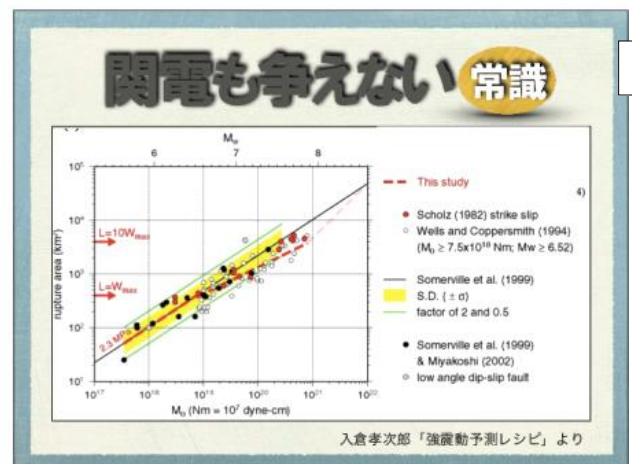
21



22



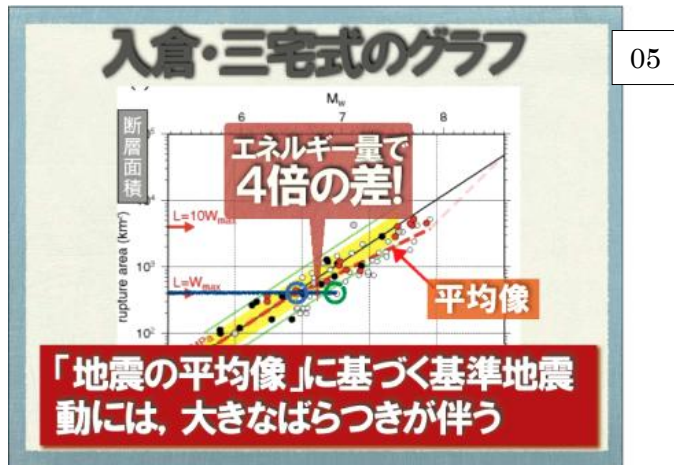
23



24

03

04



25

06

規制委で耐震ルール作りに関与した 藤原広行氏

(防災科学技術研究所社会防災システム研究領域長)

◆「今の基準地震動の値は一般に、平均的な値の1.6倍程度。実際の揺れの8～9割はそれ以下で収まるが、残りの1～2割は超えるだろう。」

◆3%程度は現在の高浜原発のクリフエッジ(設計上対応不能な震度)を超える可能性あり

(毎日新聞2015年5月7日)

26

07

大飯原発は、**地域性**に問題ないから、大丈夫。

関電

27

08

関電の主張

綿密な調査で断層・地盤を確認

地盤が軟らかいと大幅な増幅

途中ゆがんでいると予期せぬ増幅

地域性

サイト特性

伝播特性

震源特性

震源 断層

28

09

関電の主張

綿密な調査で断層・地盤を確認

大飯原発は地盤が強固で均質

地域性

サイト特性

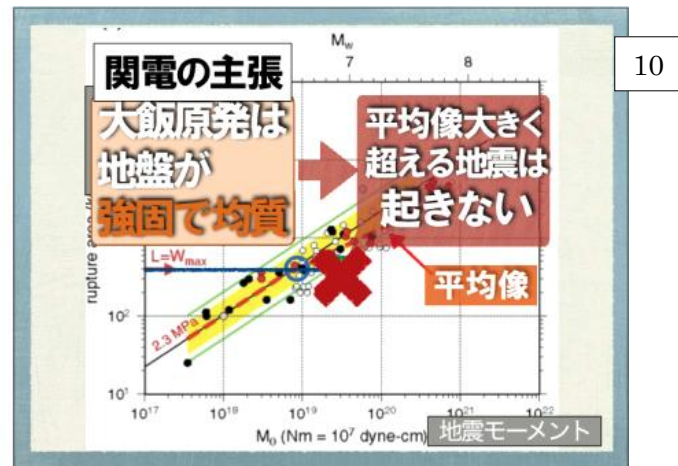
伝播特性

震源特性

震源 断層

原子力発電所

29



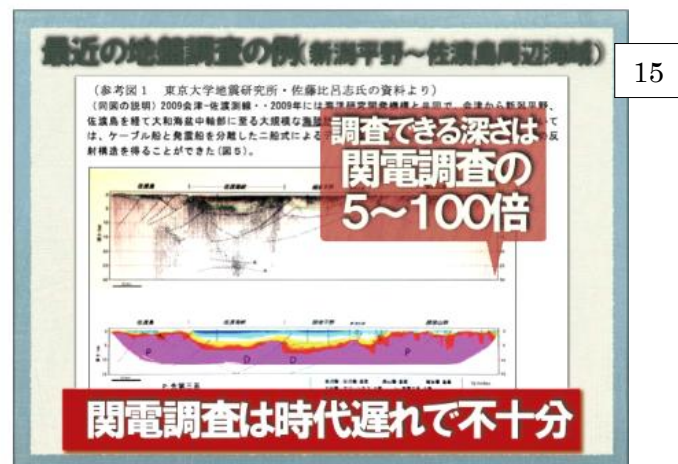
30

11

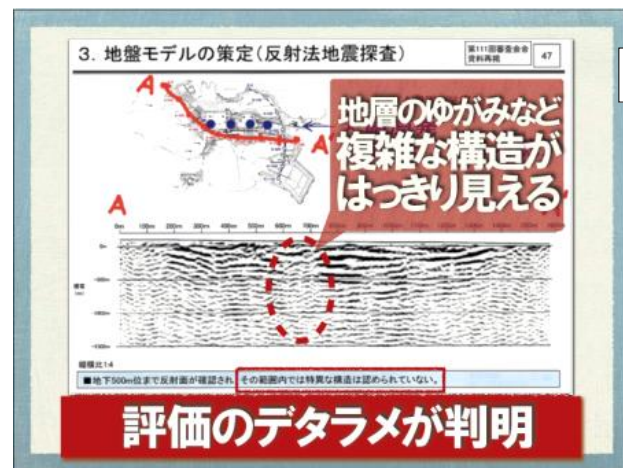
地盤調査は表層のみ。深さ3km超える震源断層までの地下構造の詳細は分からない。

前原子力規制委員会委員長代理 島崎邦彦氏 証言台

31



32



16

入倉・三宅式の
使い方が間違え
基準地震動の
大幅な過小評価
になっている。

前原子力規制委員会
委員長代理
島崎邦彦氏
証言台

12

中297号証、甲331号証をもとに原告ら代理人作成

	観測 記録 10の16乗 H/m	断層長さ km	武村式	山中・ 島崎式	松田式 +武村 (1990)	入倉・ 三宅式	入倉・三宅/ 観測記録	断層 傾斜角
1991年 島根地震	180	69	210	180	130	52	0.29倍	90°
1930年 北伊豆地震	27	27	32	28	21	7.9	0.29倍	90°
2011年 福島県沖地震	11	19.5	17	14	11	5.5	0.5倍	60°
1927年 北丹波地震	46	33	48	41	19	12	0.26倍	90°
1943年 島根地震	36	30	39	34	18	9.8	0.27倍	90°
1945年 三河地震	10	21	19	17	9	19	1.9倍	30°
1995年 兵庫県南部地震	22	34	45	39	20	11	0.5倍	90°
2016年 熊本地震	47	31	42	37	19	13.7	0.29倍	60°

35

安全審査は、決
められたステッ
プを踏んでない。
大変な欠陥。

前原子力規制委員会
委員長代理
島崎邦彦氏
証言台

13

纈纈一起東大地震研究所教授
発表も、島崎証言を裏付けた

◆「震源断層を予測した地震の強震動予
測手法」(2016年地震学会発表)
「詳細な地盤調査を行っても、震源断層
の幅(=断層面積)を推定することは困
難なので、として、入倉・三宅式を用い
ない地震動予測方法をとるべきだと指摘

37

地震本部の予測手法(レシピ)
修正も島崎証言を裏付けた

◆政府の地震本部の強震動予測手法修正
(2016年12月)
以前は認められていた「詳細な調査結果に
基づき震源断層を推定する」手法を削除、
過去の地震記録を重視
過去の地震記録がない大飯原発
で入倉・三宅式は使用できない

38

「平均像でも問題ない」
とする「破たん」張

地域性の十分な調査と考慮
「不確かさ」の十分な考慮
安全審査で厳しいチェック
地震や原子力に関する調査や報告

14

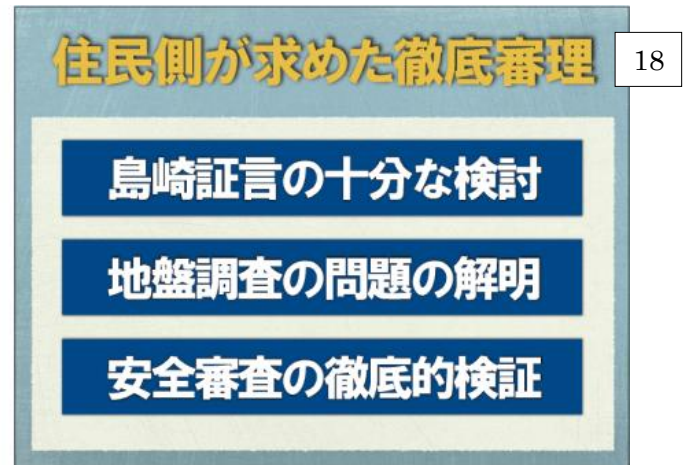
根拠なし

「想定外」の大地震は起こり得る

17



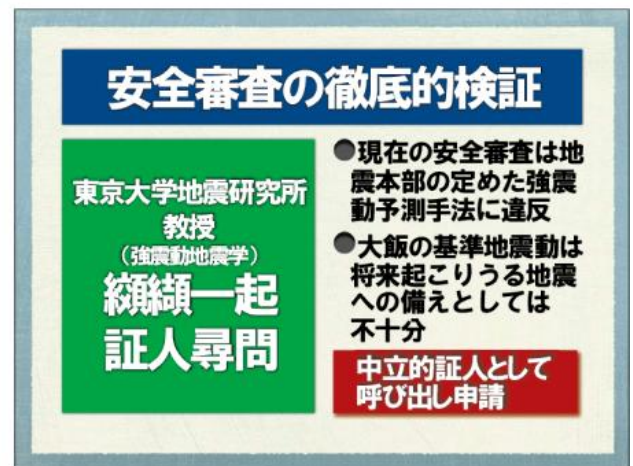
41



18



43



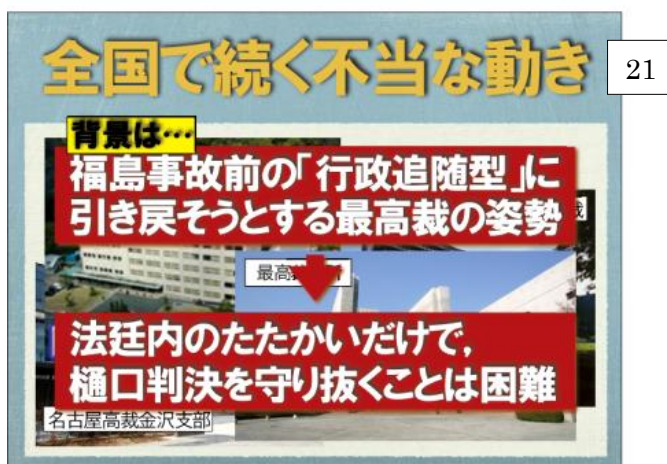
44



19



20



21



22